

**製品名:** リン酸化 $\beta$ アレスチン1 (Ser412) ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号:** AMRe02839

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.5mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW: 47 kDa; Observed MW: 50 kDa

**抗原情報**

遺伝子名	ARRB1
別名	ARB1; ARR1; ARRB1; ARRB1_HUMAN; Arrestin 2; Arrestin beta 1; Arrestin beta-1; Beta-arrestin-1.
遺伝子 ID	408
SwissProt ID	P49407
免疫原	標的タンパク質の残基に対応する合成リン酸化ペプチド

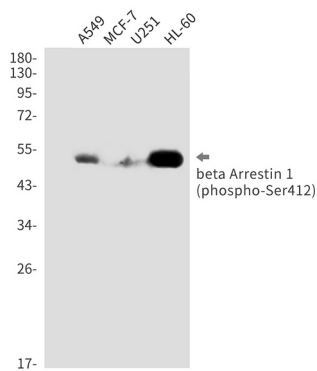
**背景**

アレスチン/ $\beta$ -アレスチンタンパク質ファミリーのメンバーは、Gタンパク質共役受容体のアゴニストを介した脱感作に関与し、ホルモン、神経伝達物質、感覚信号などの刺激に対する細胞応答を特異的に抑制すると考えられています。アレスチン  $\beta$ 1 は細胞質タンパク質であり、 $\beta$ アドレナリン受容体キナーゼ (BARK) を介した  $\beta$ アドレナリン受容体の脱感作における補因子として機能します。中枢神経系に加えて、末梢白血球にも高レベルで発現していることから、BARK/ $\beta$ -アレスチン系は受容体を介した免疫機能の調節において重要な役割を果たすと考えられています。アレスチン  $\beta$ 1 の異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写産物が報告されています。[RefSeq 提供、2011年1月]

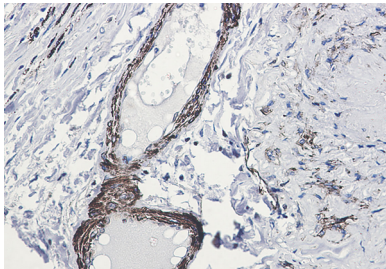
## 研究分野

シグナル伝達

## 画像データ



ホスホベータアレスチン 1 (Ser412) 抗体を使用した、A549、MCF-7、U251、HL-60 溶解物中のホスホベータアレスチン 1 (Ser412) のウエスタンブロット分析。



ベータアレスチン 1 (リン酸化 Ser412) 抗体を使用したパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学分析。抗原賦活化には高圧高温クエン酸ナトリウム pH 6.0 を使用しました。